

# JOB REPORT

## ぶどう棚から噴き出すウォーターカーテン

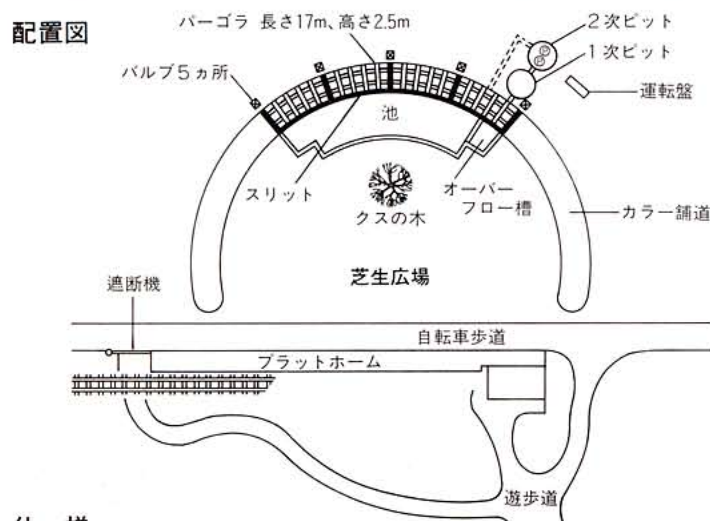
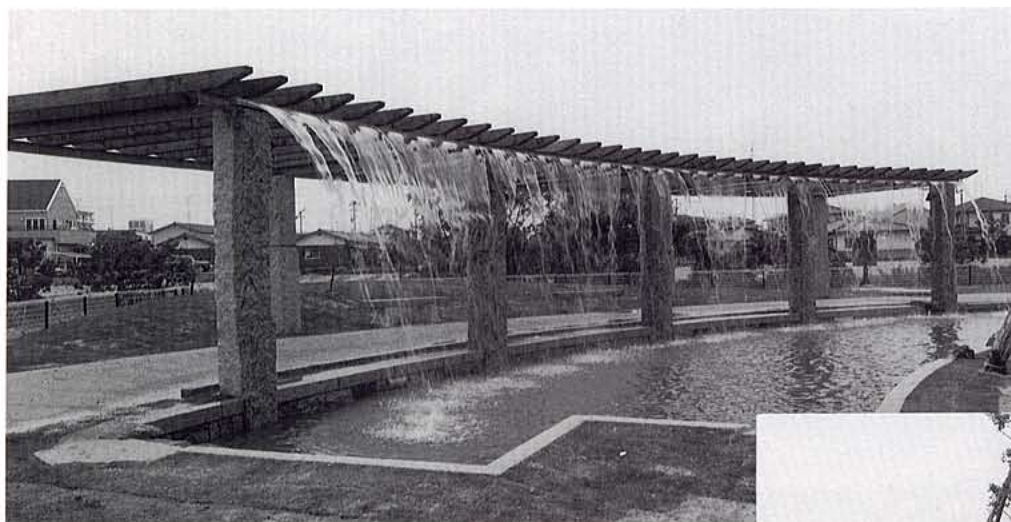
今、日本中でゆとりのある生活環境を目指して公園の建設が増えている。国立公園のような大きなものから、町内にある小さな児童公園まで、その規模も利用目的もさまざまである。しかし、どのような公園であっても、設計担当者の方々は利用者に愛されるよう苦心されているようである。

今度、旧国鉄南佐賀駅跡地に完成した児童公園も、計画時に市役所担当者の方より、「石柱の上に組んだぶどう棚の前面から子供達が入って遊ぶ下の池へ、水のスクリーンを作って飛ばせないか」との相談を受けた。

公園の専門書にオーバーフロー方式のものはあるが、17m幅のスリットから噴き出す方式のものはない、との話を聞き非常にやりがいを感じた。前例がないため製作過程では大変苦労したが、何とかオープニングの5月17日に間に合わせる事ができた。

長年の間地元の人々に親しまれた駅の跡地で、プラットホーム等はそのま利用されており、年配の方々には思い出深い場所であり、また子供達も思いっきり遊べる。

オープニングの当日は公園祭りが催されたが、ウォーターカーテンが祭りの雰囲気をも高め、公園は遅くまでにぎわった。



### 仕様

ポンプ 水中タービンポンプST-8051G2×2台(口径80mm、出力3.7kW)

運転盤 屋外防滴形、自動交互運転(24Hタイマー内蔵)

吐出口 スリット長さ17m、スリット幅0.8mm

計画者 佐賀市都市計画課

施工者 (株)森輪商工